

口腔医学講座関連医学分野

1. 教室の歴史

昭和43年4月から内科学の講義を開始し、医学部各内科から講師が派遣され昭和46年3月まで行われてきた。歯学部内で内科学および外科学の担当専任教授の要望が高く、昭和46年4月1日から医学部内科学第二講座の加藤政孝助教授が歯学部教授待遇として担当となり、昭和47年11月からは内科学臨床実習が開始となった。昭和55年6月に加藤政孝歯学部内科兼任教授が、医学部内科学第二講座主任教授に昇任され、同年8月に歯学部を退かれた。昭和56年から以前のごとく、医学部各内科から講師が派遣され講義を担当した。高齢化社会が進む中で、有病者の歯科受診の増加から専任内科による充実した教育が必要となり、昭和59年4月1日から医学部内科学第二講座高橋栄司助教授が歯学部教授待遇として発令され歯学部内科学全般を担当し、平成3年9月に歯学部内科学科教授に就任し平成11年3月31日まで担当した。

一方で、歯学部外科学は昭和43年4月から医学部外科各科から講師が派遣され講義を担当した。昭和46年4月1日から昭和51年3月まで医学部外科学講座川村隆夫助教授が歯学部教授待遇として担当し、外科学臨床実習が開始となった。昭和51年4月から医学部外科学第一講座佐々木純助教授が歯学部教授待遇として、平成3年9月1日に歯学部外科学教授に就任し平成9年3月31日まで担当した。

その後、内科学および外科学のみならず社会系・内科系隣接医学（法医学、小児科学、皮膚科学、精神神経科学、臨床検査医学）および外科系隣接医学（整形外科、産婦人科学、耳鼻咽喉科学、眼科学、泌尿器科学）として医学部各診療科から講師が派遣され講義を担当していたが、平成20年5月1日に中居賢司教授が歯学部内科学教授に就任し、平成21年2月1日

に総合歯科学講座歯科内科学分野、平成24年4月1日に口腔医学講座関連医学分野と講座の名称が変更となり、平成27年4月1日から千葉俊美教授が就任し、現在に至っている。

2. 最近10年間の歩みと現状

講義：平成21年中居賢司教授就任時、内科学（40.5時間）および外科学（22.5時間）の講義は第3学年に、隣接医学（90時間）は第5学年に講義を行っていた。その後、平成24年度から第5学年に医科学として講義内容を刷新し、歯科医療に必要な医学的内容を充実させ、内科学、外科学および隣接医学として依頼していた医学部診療各科に加えて脳神経外科学、救急医学、産婦人科学を含め全72コマ108時間の講義を設定し施行した。平成25年度は72コマ96時間、平成26年度および平成27年度は66コマ88時間の講義であった。平成27年4月1日から千葉俊美教授が就任し、平成28年度から第4学年SmADのSubUnitのうち高齢者・有病者で3コマ4.5時間を追加し、平成29年度からは第3学年に医科学総論を19コマ28.5時間新設し、第4学年SmADのSubUnitのうち高齢者・有病者で5コマ7.5時間に増加し、第5学年医科学は講義コマ数の変化はないものの講義時間の短縮により66コマ66時間と若干の縮小となった。平成30年度から、段階的に第5学年の医科学を第4学年に移行し医科学IとしてSmADに20コマ30時間を組み込み、さらに凶解心電図テキストを用いて4コマ6時間の心電図の集中講義を行っている。平成31年度（2019年度）からは第4学年の医科学IをMSD（Medical Science for Dentistry）とコースとして独立し20コマ30時間、第5学年の医科学II 44コマ66時間と分けて講義を行い、CBT試験および歯科医師国家試験のみならず、歯科医師として必要な医学的知識を獲得すべく幅広く講義を行っている。その他、2019年度は第1学年

歯科医学概論 2 コマ 3 時間, 臨床歯科学入門を 2 コマ 3 時間を担当し, 第 2 学年組織学・発生学 2 コマ 3 時間, 生理学 1 コマ 1.5 時間, 第 3 学年 IDP 1 コマ 1.5 時間, DTP 2 コマ 3 時間, SmAD 7 コマ 10.5 時間, 総合講義は第 5 学年 2 コマ 2 時間, 第 6 学年の 11 コマ 11 時間担当し, 本講座関連の講義時間を 163 時間に充実させている。

研究: 最近 10 年間における本講座関連の研究
平成 22, 23, 24, 25, 26 年度:

- 1) 187 チャンネル高感度・高増幅心電計 (DREAM-ECG) のプログラム開発と臨床応用
 - ① Vector projection theory を用いた 187 チャンネル高感度・高増幅心電計で T 派交互脈の解析法を考案して臨床的意義を報告した。
 - ② Vector projection theory を用いた 187 チャンネル高感度・高増幅心電計で CRT-D 植え込み例の致死的不整脈のリスクを報告した。
 - ③ DREAM-ECG でマイクロボルト T 波交互脈 (μ V T-wave alternans, TWA) と再分極指標 (Tp-e dispersion), および脱極指標 (Late potentials) の二次元機能図解析法を考案した。
 - ④ DREAM-ECG で心房細動波のスペクトル解析による二次元機能図解析法を開発した。
 - ⑤ 災害時対応型プロトタイプ 187 チャンネル高感度・高増幅心電計を開発した。
 - ⑥ DREAM-ECG による妊婦の心筋障害の早期スクリーニング法評価のための臨床研究を開始した。
 - ⑦ DREAM-ECG による電子機器装着例での歯科医療器具の催不整脈事象などの安全性評価に関する研究を開始した。
 - ⑧ DREAM-ECG でマイクロボルト T 波交互脈 (μ V T-wave alternans, TWA) と再分極指標 (Tp-e dispersion), および心房細動波のスペクトル解析の二次元機能図解

析法の臨床例での有用性を検証した。

- ⑨ DREAM-ECG で心室遅延電位および心房細動波のスペクトル解析による二次元機能図解析法を開発した。
 - ⑩ DREAM-ECG による妊婦の心筋障害の早期スクリーニング法評価のための臨床研究
 - ⑪ DREAM-ECG による電子機器装着例での歯科医療器具の催不整脈事象などの安全性評価に関する研究
- 2) 平成 22 年度私立大学戦略的研究基盤形成事業 (未来医療開発プロジェクト)
 - ① 「高分解能心電計および SNP 解析による抗癌剤誘発筋傷害の評価」を立ち上げ乳癌での化学療法施行症例を登録開始した。
 - ② 遠隔診療対応型プロトタイプ高分解能心電解析システムを開発し構築した。
 - 3) 薬剤代謝遺伝子多型の解析と臨床的意義
 - ① 抗凝固薬ワルファリン服用者での個別化療法を実施した。
 - ② 薬剤代謝遺伝子多型および疾患感受性遺伝子多型を解析した。
 - ③ 抗凝固薬ワルファリン服用者での個別化療法を実施した。
 - ④ 抗血小板薬の代謝および薬効に関わる遺伝子多型の解析法を確立した。
 - ⑤ ブルガダ症候群の発症に関わるとされる Na チャンネル (SCN5A 遺伝子) の解析法を確立した。
 - 4) 64 チャンネル心磁計の臨床応用
 - ① 64 チャンネル心磁計による心筋傷害および心房細動のスペクトル解析の開発を行い肺静脈隔離術での意義を報告した。
 - ② 胎児心磁図計測して, 胎児不整脈 (心室頻拍) の意義について報告した。
 - ③ 64 チャンネル心磁計および DREAM-ECG による心臓移植後の拒絶心筋の早期スクリーニング法を報告した。
- 平成 27, 28 年度
- 1) High-resolution manometry (HRM) による嚥下困難症例の咽頭・食道運動機能の研究を施行しコントロール群と比較検討した。

- 2) 機能的消化管障害における脳腸相関の研究を行い、脳の活動および形態などを頭部MRIで検討を行った。
- 3) 腸炎患者における水溶性ビタミン含有輸液であるパレプラス投与時の栄養評価を施行した。平成29, 30年度
- 1) 岩手医科大学歯科医療センター初診外来の実態把握の調査を行い現状把握を行った。
- 2) 口腔癌患者の手術療法、化学療法、放射線療法施行後の栄養状態の把握を目的に体組成分析を施行しその傾向を検討した。
- 3) 口腔関連癌における特殊光による拡大内視鏡検査の検討を立ち上げた。
- 4) 機能的消化管障害のRome IV基準研究を国際共同研究で行っている。
- 5) 過敏性腸症候群における桂枝加芍薬湯の有効性の検討：多施設共同プラセボ対照二重盲検無作為化試験を行っている。

診療：平成30年5月から内科診察室を新設稼働し、初診外来における第5学年の学生実習の際に、入院患者のみならず外来患者の病態把握のため、学生と共に症例に対するポイントを確認している。また、体組成分析装置を設置し、口腔関連疾患における栄養評価を行い、食事内容や補液の適切投与などについての一助としている。さらに、ハーバード大学から平成31年3月にNBI拡大内視鏡検査装置を導入し、口腔粘膜病変などについてより詳細な所見を検討している。

3. 人事

平成3年9月に内科学高橋栄司教授が就任し平成11年3月まで、平成3年9月に外科学佐々木純教授が就任し平成9年3月まで担当した。その後、平成15年度から兼任講師として内科学鹿内俊樹講師が平成19年度まで、外科学佐々木章講師が平成15年度から平成20年度まで担当し、西塚 哲講師が平成22年度から平成27年度まで、新田浩幸講師が平成28年度から兼任講師を担当し現在に至っている。内科学は中

居賢司教授が平成20年5月1日から平成27年3月まで担当し、現在、客員教授に就いている。平成27年4月1日から千葉俊美教授が就任し現在に至っている。

令和元年5月1日現在

教授：千葉 俊美

客員教授：中居 賢司



千葉 俊美

中居 賢司

4. 最近10年間の業績

学術論文（英文）

a) 原著

- 1) Fukushima, A., Nakai, K., Matsumoto, A., Strasburger, J., Sugiyama, T.: Prenatal diagnosis of polymorphic ventricular tachycardia using 64-channel magnetocardiography. *Heart Vessels*, 25: 270-273, 2010.
- 2) Suzuki, A., Shiga, T., Nakai, K., Futagawa, K., Matsuyama, Y., Shoda, M., Kasanuki, H., Hagiwara, N.: Interlead difference between T-peak to T-end intervals in resynchronization patients with an implantable cardioverter-defibrillator. *J. Electrocardiol.*, 43: 706-712, 2010.
- 3) Nakai, K., Itoh, M., Okabayashi, H., Tsuboi, J., Mitsunaga, Y., Komatsu, T., Yoshika, K.: Body surface two-dimensional spectral map of atrial fibrillation using vector-projected 187 channel electrocardiography. *Int. Heart J.*, 53: 5-10, 2012.

- 4) Futagawa, K., Shoda, M., Nakai, K., Kasanuki, H., Hagiwara, N.: Spatial distribution of ventricular late potentials assessed by the newly developed signal-averaged vector-projected 187-channel electrocardiogram in patients with old myocardial infection. *J. Arrhythm.*, 29: 28-33, 2012.
- 5) Terata, M., Nakai, K., Fukushima, A., Itoh, M., Kikuchi, A., Sugiyama, T.: Detection of peripartum myocardial burden by vector-projected 187 channel electrocardiography and serum NT-proBNP. *Int. Heart J.*, 54: 140-145, 2013.
- 6) Nakai, T., Mano, H., Ikeya, Y., Sonoda, K., Ashino, S., Okumura, Y., Ohkubo, K., Kunimoto, S., Kasamaki, Y., Watanabe, I., Hirayama, A., Nakai, K.: Electrical storm a filter cardiac resynchronization therapy in a patient with nonischemic cardiomyopathy: Signal-averaged vector-projected 187-channel electrocardiogram based risk stratification for lethal arrhythmia. *J. Arrhythm.*, 29: 353-356, 2013.
- 7) Ogiso, M., Suzuki, A., Shiga, T., Nakai, K., Shoda, M., Hagiwara, N.: Effect of intravenous amiodarone on QT and T peak-T end dispersions in patients with nonischemic heart failure treated with cardiac resynchronization-defibrillator therapy and electrical storm. *J. Arrhythm.*, 31:1-5, 2015. doi: 10.1016/j.joa.2014.01.006. Epub 2014 Apr 3.
- 8) Sato, S., Chiba, T., Nakamura, S., Matsumoto, T.: Changes in cytokine profile may predict therapeutic efficacy of infliximab in patients with ulcerative colitis. *J. Gastroenterol. Hepatol.*, 30:1467-72, 2015.
- 9) Yamamoto, K., Chiba, T., Matsumoto, T.: Effect of tumor necrosis factor- α antagonists on oxidative stress in patients with Crohn's disease. *World J. Gastroenterol.*, 21: 10208-10214, 2015.
- 10) Fukudo, S., Kaneko, H., Akiho, H., Inamori, M., Endo, Y., Okumura, T., Kanazawa, M., Kamiya, T., Sato, K., Chiba, T., Furuta, K., Yamato, S., Arakawa, T., Fujiyama, Y., Azuma, T., Fujimoto, K., Mine, T., Miura, S., Kinoshita, Y., Watanabe, M., Sugano, K., Shimosegawa, T.: Evaluation of Kampo medicine in the clinical practice guideline for irritable bowel syndrome. *J. Gastroenterol.* 50: 817-818, 2015.
- 11) Toya, Y., Nakamura, S., Tomita, K., Matsuda, N., Abe, K., Abiko, Y., Orikasa, S., Akasaka, R., Chiba, T., Uesugi, N., Sugai, T., Matsumoto, T.: Dabigatran-induced esophagitis: The prevalence and endoscopic characteristics. *J. Gastroenterol. Hepatol.*, 31: 610-614, 2015.
- 12) Chiba, T., Endo, M., Miura, S., Hayashi, Y., Asakura, Y., Oyama, K., Chida, S., Suzuki, K., Matsumoto, T.: Neutrophil CD64 expression in Crohn's Disease following anti-TNF- α therapy. *J. Cytokine. Biol.*, 2017; 2: 3 DOI: 10.4172/2576-3881.1000119.
- 13) Tominaga, K., Sakata, Y., Kusunoki, H., Odaka, T., Sakurai, K., Kawamura, O., Nagahara, A., Takeuchi, T., Fujikawa, Y., Oshima, T., Kato, M., Furuta, T., Murakami, K., Chiba, T., Miwa, H., Kinoshita, Y., Higuchi, K., Kusano, M., Iwakiri, R., Fujimoto, K., Tack, J.F., Arakawa, T.: Rikkunshito simultaneously improves dyspepsia correlated with anxiety in patients with functional dyspepsia: A randomized clinical trial (the DREAM study). *Neurogastroenterol. Motil.*, 2018:e13319. DOI: 10.1111/nmo.13319.
- 14) Chiba, T., Suzuki, K., Matsumoto, T.: Plasma-free amino acid profiles in Crohn's disease: relationship with the Crohn Disease Activity Index. *Clinical Medicine Insights: Gastroenterology* 2018;11:1-7. doi: 10.1177/1179552218791173.
- 15) Chiba, T., Endo, M., Miura, S., Hayashi, Y., Asakura, Y., Oyama, K., Matsumoto, T.: Regulatory T cells in Crohn's disease following anti-TNF- α therapy. *JGH OPEN* 2019;1-4. doi:10.1002/jgh3.12259.
- 16) Chiba, T., Ito, K., Mori, F., Sasaki, M., Matsumoto, T.: Detection of microstructural white

matter alterations in functional gastrointestinal disorders assessed by diffusion kurtosis imaging. *J. Neurogastroenterol. Motil.* 2019, in submission.

b) 総説

- 1) Fukudo, S., Kaneko, H., Akiho, H., Inamori, M., Endo, Y., Okumura, T., Kanazawa, M., Kamiya, T., Sato, K., Chiba, T., Furuta, K., Yamato, S., Arakawa, T., Fujiyama, Y., Azuma, T., Fujimoto, K., Mine, T., Miura, S., Kinoshita, Y., Sugano, K., Shimosegawa, T.: Evidence-based clinical practice guidelines for irritable bowel syndrome. *J. Gastroenterol.* 50: 11-30, 2015.
- 2) Satoh, K., Yoshino, J., Akamatsu, T., Itoh, T., Kato, M., Kamada, T., Takagi, A., Chiba, T., Nomura, S., Mizokami, Y., Murakami, K., Sakamoto, C., Hiraishi, H., Ichinose, M., Uemura, N., Goto, H., Joh, T., Miwa, H., Sugano, K., Shimosegawa, T.: Evidence-based clinical practice guidelines for peptic ulcer disease 2015. *J. Gastroenterol.* 51 (3): 177-94, 2016.
- 3) Chiba, T.: Laryngopharyngeal reflux disease (LPRD) – Review article. *MRA* 2017, Vol. 5, Issue 2, February 2017, <http://dx.doi.org/10.18103/mra.v5i2>.
- 4) Iwakiri, R., Tanaka, K., Gotoda T, Oka, S., Otsuka, T., Sakata, Y., Chiba, T., Higuchi, K., Masuyama, H., Nozaki, R., Matsuda, K., Shimono, N., Fujimoto, K., Tajiri, H.: Guidelines for Standardizing Cleaning and Disinfection of Gastrointestinal Endoscopes. *Digestive Endosc.*, 2019 Jun 26. doi: 10.1111/den.13474. [Epub ahead of print].

c) 症例報告

- 1) Suzuki, K., Kumagai, I., Yoshida, Y., Miyasaka, A., Takikawa, Y., Kamiya, R., Kondo, K., Kato, A., Chiba, T., Okamoto, H.: Asymptomatic acute hepatitis E in a female patient with ulcerative colitis. *Clin. J. Gastroenterol.* 2017; 10:255-260. doi: 10.1007/s12328-017-0730-7.

- 2) Nakamura, S., Nakai, K., Sakata, M., Nagaoka, Y., Yoshida, K., Katsumata, U., Chiba, T., Matsubayashi, K.: Recipient sepsis caused by *Lactococcus garvieae* contamination of platelets from a donor with colon cancer. *Vox. Sang.* 2019;114:182–184. doi: 10.1111/vox.12740.
- 3) Nakai, K., Itoh, M., Fusazaki, T., Morino, Y.: Prolonged sinus arrest on electrocardiogram recording during apheresis donation in young female donor with convulsive syncope. *Critical Case Reports.* 2019. DOI: 10.1002/ccr3.2077

学術論文 (和文)

a) 原著

- 1) 藤城光弘, 田中信治, 斎藤 豊, 新保卓郎, 石川秀樹, 上村直実, 飯石浩康, 芳野純治, 小原勝敏, 上西紀夫, 田尻久雄, 参加施設 岩手医科大学 千葉俊美. 大腸 ESD データ検討委員会中間報告: 先進医療として施行された大腸 ESD の有効性と安全性に関する多施設共同研究 (前向きコホート研究). *Gastroenterol Endosc.* 57 (6) : 1411-1426, 2015.
- 2) 狩野 敦, 千葉俊美, 中村昌太郎, 松本主之, 小川 彰. 岩手県対がん協会による大腸がん検診 – 平成 19 年度以降の追加成績と昭和 60 年検診発足以来の集計 – 岩手医学雑誌, 67 (2) : 59-71, 2015.
- 3) 鳥谷洋右, 安孫子幸人, 千葉俊美, 永塚 真, 上杉憲幸, 菅井 有, 松本主之. 若年性ポリポシスの胃病変. *胃と腸*, 50 (6) : 810-813, 2015.
- 4) 千葉俊美. 過敏性腸症候群の病態と脳腸相関. *日本心療内科学会誌*, 20 (4) : 232-237, 2016.
- 5) 千葉俊美, 春日井 聡, 藤原隆雄. 安孫子幸人, 牛尾 晶, 松本主之. 腸炎患者における水溶性ビタミン配合末梢静脈栄養輸液製剤 (バレプラス® 輸液) の臨床栄養評価. *診療と新薬*, 55 (3) :185-192, 2018.
- 6) 千葉俊美, 松本主之, 鈴木一幸. 炎症性腸疾患の最新の進歩 – 栄養代謝や腸内細菌との関連から クロウン病における CDAI と血中アミノ酸 –. *消化と吸収*, 40 (2) : 86-90, 2018.

- 7) 中居賢司, 田口千晴, 久保聖子, 石井典子, 崎尾智穂, 佐藤泰子, 中島みどり, 長峯文雄, 伊藤寛泰. 成分献血時のクエン酸反応および血管迷走神経賦社の高分解能心電計による評価. 血液事業, 23: 602-606, 2018.
- 8) 中居賢司. 循環器疾患診療の最新の進歩と歯科医療での課題. 日本歯科保存学会誌, 61: 80-84, 2018.
- 9) 千葉俊美, 松本主之, 鈴木一幸. クロウン病における TNF- α 抗体薬投与による栄養評価. 消化と吸収, 40 (2) : 108-111, 2018.
- 10) 中居賢司, 田口千晴, 中島みどり, 高橋久美代, 佐藤康子, 久保聖子, 高橋明美, 伊藤寛泰, 伊藤学. モニタリングシステムによる痙攣・失神や重症 VVR の把握と採血現場での対応. 血液事業, 42: 195-198, 2019.
- 11) 千葉俊美, 千田弥栄子, 野田 守, 三浦廣行. 岩手医科大学歯学部初診外来の現況. 岩手医科大学歯学会誌, 44: 1-9, 2019.
- b) 総説
 - 1) 中居賢司. 循環器診療の進歩・潮流と口腔医学. 有病者歯科医療, 21: 123-133, 2012.
 - 2) 千葉俊美, 松本主之. 機能性消化管疾患診療ガイドライン-Rome 基準との比較から. 臨床消化器内科, 30: 161-170, 2015.
 - 3) 千葉俊美. ちょっと待て, IBS と診断するその前に. 診断と治療, 103 (8) : 1047-1051, 2015.
 - 4) 千葉俊美. 過敏性腸症候群. Medicina, 52: 1708-1713, 2015.
 - 5) 千葉俊美. 誰も教えてくれなかったー慢性便秘の診かた 慢性便秘総論 慢性便秘の現状. Medicina, 53 : 1322-1325, 2016.
 - 6) 千葉俊美. 特集テーマ「消化器非腫瘍性疾患診療ガイドラインのポイント」機能性消化管疾患 (IBS). 成人病と生活習慣病, 46 (9) :1100-1107, 2016.
 - 7) 千葉俊美. 特集「薬剤性消化管傷害の現状と対応」NSAIDs による消化管傷害. 日本医事新報, 4858 (6) : 28-34, 2017.
 - 8) 千葉俊美. 特集 I / 慢性便秘アップデート 慢性便秘症の現状と生活指導. 消化器・肝臓内科, 2 (2) : 125-132, 2017.
 - 9) 千葉俊美. 特集「消化管治療薬 外来での使いどころ」《下部消化管領域》過敏性腸症候群治療薬. 内科, 121 (2) : 257-262, 2018.
 - 10) 千葉俊美. 特集「機能性消化管障害の Up to date」3. 過敏性腸症候群 病態. 成人病と生活習慣病, 48 (2) : 211-216, 2018.
 - 11) 千葉俊美. 特集: 慢性便秘ー新たな分類と病態・診断・治療 疫学ー有病率・家族内集積・性差・年齢・BMI・予後. 臨床消化器内科, 33 (4) : 377-382, 2018.
 - 12) 千葉俊美. 特集/便秘と下痢の最前線ー診断と治療のパラダイムシフトー 6. 生活習慣と慢性便秘. 診断と治療, 106 (7) : 821-825, 2018.
 - 13) 千葉俊美. 特集「ガイドラインに基づく慢性便秘症治療」慢性便秘症の疫学と診断. 日本医事新報, 4919: 28-36, 2018.
 - 14) 岩切 龍一, 田中 聖人, 後藤田 卓志, 岡志郎, 大塚 隆生, 坂田 資尚, 千葉 俊美, 樋口 和秀, 増山 仁徳, 野崎 良一, 松田 浩二, 下野 信行, 藤本 一眞, 田尻 久雄, 日本消化器内視鏡学会, 日本感染症学会, 日本消化器内視鏡学会ガイドライン委員会, ワーキング委員会. 消化器内視鏡の洗浄・消毒標準化にむけたガイドライン. Gastroenterological Endoscopy, 60 (7) : 1372-1396, 2018.
 - 15) 中居賢司. 循環器疾患診療の最新の進歩と歯科医療での課題. 日本歯科保存学会誌, 61: 80-84, 2018.
 - 16) 岩切龍一, 田中聖人, 後藤田卓志, 岡 志, 大塚隆生, 坂田資尚, 千葉俊美, 樋口和秀, 増山仁徳, 野崎良一, 松田浩二, 下野信行, 藤本一眞, 田尻久雄. 消化器内視鏡の洗浄・消毒標準化にむけたガイドライン. 日本消化器内視鏡学会誌, 60 (7) : 1372-1396, 2018.
 - 17) 千葉俊美. 過敏性腸症候群と慢性便秘に係る診療ガイドラインの現状. 日本臨床, 77:1761-1766, 2019.

- 18) 千葉俊美. 「慢性便秘症ガイドライン時代の便秘診療」なぜ, 便秘症を治療するのかー慢性便秘の治療の意義ー. 消化器内科, 2 :6-12, 2020.
- c) 症例報告
- 1) 千葉俊美. 歯学部外来における意識障害の救急対応. 岩手医大歯誌, 43:133-139, 2019.
- ② 著書
- 1) 中居賢司. ベクトル合成 187 チャンネル加算心電図による致死的不整脈の評価, 田邊晃久編: 不整脈ノンインベイスブ検査. 医学書院, 東京, 2010.
- 2) 中居賢司. 心磁計および多チャンネル心電計, 井上博, 村川祐二監修: 不整脈学. 南江堂, 東京, 2012.
- 3) 千葉俊美, 鈴木一幸: 下剤, 浣腸薬, 小松靖宏編: Pocket Drugs. 2015, 医学書院, 東京, 310-311, 2015.
- 4) 千葉俊美. 薬物性潰瘍: 低用量アスピリン (LDA) 潰瘍, 下瀬川徹編: 消化性潰瘍診療ガイドライン 2015. 日本消化器病学会. 南江堂, 東京, 133-153, 2015.
- 5) 千葉俊美. 第3章 痛みの原因とそのメカニズムからさぐる疼痛治療薬開発の展望 第5節 腹痛 [3]機能性ディスペプシア. 菅原隆編: 痛みのメカニズムとこれからの治療薬. 技術情報協会, 東京, 109-112, 2015.
- 6) 千葉俊美. 第4章 部位別の痛みの最新治療・薬物選択・治療へのニーズ 第5節 腹痛 [3]機能性ディスペプシア. 菅原隆編: 痛みのメカニズムとこれからの治療薬. 技術情報協会, 東京, 321-324, 2015.
- 7) 千葉俊美, 松本主之. 顕微鏡的大腸炎 (MC) と IBS の鑑別. 稲森正彦, 他編: 消化管の機能性疾患診療マニュアル. 診断と治療社, 東京, 112-114, 2015.
- 8) 千葉俊美. しゃっくり (吃逆). 高橋信一編: 消化管疾患診療のギモン・シツモン・アンコモン. 日本医事新報社, 東京, 19-21, 2015.
- 9) 千葉俊美. 急性胃炎, 急性胃粘膜病変. 高橋信一編: 消化管疾患診療のギモン・シツモン・アンコモン. 日本医事新報社, 東京, 73-75, 2015.
- 10) 千葉俊美, 鈴木一幸. 下剤, 浣腸薬. 小松靖宏編: Pocket Drugs 2016. 医学書院, 東京, 264-270, 2016.
- 11) 千葉俊美. 下痢. 中島 淳編: 消化器研修ノート. 診断と治療社, 東京, 78-80, 2016.
- 12) 千葉俊美. 便秘. 中島 淳編: 消化器研修ノート. 診断と治療社, 東京, 81-83, 2016.
- 13) 千葉俊美, 鈴木一幸. 下剤, 浣腸薬. 小松靖宏編: Pocket Drugs 2017. 医学書院, 東京, 268-274, 2017.
- 14) 千葉俊美. 疫学. 日本消化器病学会関連研究会 慢性便秘の診断・治療研究会編: 慢性便秘診療ガイドライン 2017. 南江堂, 東京, 10-17, 2017.
- 15) 千葉俊美, 鈴木一幸. 下剤, 浣腸薬. 小松靖宏編: Pocket Drugs 2018. 医学書院, 東京, 270-277, 2018.
- 17) 千葉俊美, 鈴木一幸. 下剤, 浣腸薬. 小松靖宏編: Pocket Drugs 2019. 医学書院, 東京, 268-274, 2019.
- 18) 千葉俊美. かかりつけ医のための便秘・便失禁診療 Q&A 便秘型 IBS と機能性便秘の違いは? 日本医事新報社, 東京, 28-31, 2019.
- 特別講演 (国際学会)
- 1) Chiba T. Pharmacotherapy of constipation. 5th ANMA, 2017.3.24; Osaka, Japan
- 2) Nakai K. Body Surface Signal Averaged Electrocardiography For Detecting Arrhythmic Event, International Congress of Electrocardiology, 2018; Chiba, Japan
- 3) Nakai K, Taguchi C, Satoh Y, Nakashima M, Ito M, Chiba T. Signal-averaged Electrocardiography Can Evaluate Citrate Response and Vasovagal Reflex During Apheresis Donation. International Congress of Electrocardiology, 2018; Chiba, Japan

特別講演（国内学会）

- 1) 中居賢司. ベクトル合成 187 チャンネル高分解能心電装置（DREAM-ECG）の開発と臨床応用. 第 22 回体表面微小電位研究会；2012.2；東京
- 2) 中居賢司. ワルファリン以外の新しい抗凝固薬. 第 23 回日本有病者歯科医療学会；2014.3；福岡
- 3) 千葉俊美. 消化器疾患からみた嚥下障害. 日本老年歯科医学会 摂食嚥下セミナー；2015；盛岡
- 4) 千葉俊美. 口腔医学と消化器病学の接点. 岩手医科大学歯学会第 81 回例会 2016.7；盛岡
- 5) 千葉俊美. 慢性便秘症診療の最前線「軽視しないで慢性便秘症～病態と診断への理解を深める～」第 103 回日本消化器病学会総会；2017.4.21；東京
- 6) 千葉俊美. 内科疾患と麻酔の関連. 第 32 回東日本歯科麻酔学会大会；2017.8.19；盛岡
- 7) 千葉俊美. 大学初診外来から内科医として考えること. 第 147 回日本歯科保存学会総会；2017.10.26；盛岡
- 8) 千葉俊美. 慢性便秘の病態と治療－特に女性に関連して－第 145 回東北連合産科婦人科学会総会・学術講演会 イブニングセミナー 2018.6.9；弘前